

研究主題

応答力を育成する教育課程の実現

単元配列表は「学びの地図」
各教科等と生活科・総合的な
学習の時間をつなぐ

- 育成を目指す資質・能力で
関連付ける
- 考えるための技法(思考
ツール)を関連付ける



生活科・総合的な学習の時間と各教科
等は、互いに補い合い、支え合う関係に
あり、相乗効果を発揮していくはず…

単元配列表を使い、単元を意図的に
配列することができれば、資質・能力を
「活用・発揮」する可能性が高くなるはず…

生活科・総合的な学習の時間
における学びの向上

【45分間の授業づくり】
＜本時のしかけ＞
1時間の授業の核となる「教師の
積極的な働き掛け」を1つ考える
(板書の構造化, 思考ツールの活用,
実物提示, 話題提供, 場の設定など)

- 【単元づくり】
- 1 本気を引き出す課題の設定
 - 2 体験的な活動(情報収集)と表現の充実
 - 3 対話(関わり)の活性化

私たちの願い

学校で学んだことが、子どもたちの
「生きる力」となって、明日に、そして
その先の人生につながってほしい。
社会に出てからも、学校で学んだ
ことを生かせるような学びを
提供するような学校で
ありたい。

令和3年度 新潟市立
小針小学校教育ビジョンより

応答力

身の回りに生じる様々な状況・問題に
対して、自分とは無関係なものとして切り
捨てるのではなく、自分を開き、自分自身
にも関わる問題として引き受け、自らのも
てる力を総動員して、異なる多様な他者と
協働して力を合わせながら、最適な解決
方法を探し出していく力



「令和の日本型学校教育」に必要な授
業観や子ども観, ICTスキルを教職員が
共有するとともに、教職員の心理的安全
性を担保するために、「ワークショップ型」
「学びカフェ」の校内研修を行っています。



子どもと子どもが、担任と担任が、
子どもと学年の担任がつながるために、
「**全学年1年ごとの学級編制**」
「**小針式教科担任制(学級担任間のゆる
やかな交換授業)**」を導入しています。

子どもの学びや教職員を支える環境

応答力を発揮する子どもを育てるために

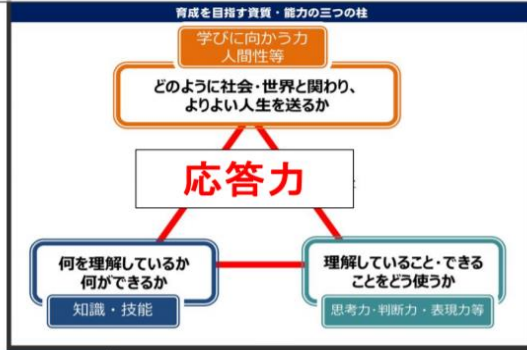
(1) 単元配列表の活用と見直し

生活科・総合的な学習の時間を中核に据え、各教科等と生活科・総合的な学習の時間を、育成を目指す資質・能力を基に関連付ける。

各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮する場面を繰り返して意図的に設定する。

- ① 育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」を「**思い・願い**」「**協働**」「**自律**」の3つに、「思考力・判断力・表現力等」を「**課題の設定**」「**整理・分析**」「**まとめ・表現**」の3つとする。
- ② これら6つの資質・能力を生活科・総合的な学習の時間には、**もれなく位置付ける**。
- ③ **活用・発揮する資質・能力を結ぶ**。例えば、国語科の資質・能力として、こういう表現の仕方を学んでいるから、それを総合的な学習の時間で活用し発揮するという考え方で結ぶ。例えば、学級活動で用いた思考スキルを生活科の時間で活用し発揮するという考え方で結ぶ（単元の順序や指導時期の見直しも含む）。

学びに向かう力・人間性等	
<思い・願い>	小針のまちや小針小学校、自分の学級にとって意味や価値があると考えられる目標を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。
<協働>	失敗や間違いを認め合い、友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして協力して活動する。
<自律>	自分の生活の仕方や学習の仕方を選択・調整したり、振り返ったりして、自らの成長を自覚する。



知識・技能		思考力・判断力・表現力等	
<多様性>	社会にある「もの」「こと」には、それぞれの対象ならではの特徴があること	<課題設定・情報収集>	解決すべき課題を見つけ、予想や仮説を立て、体験・調査して必要な情報を集める。
<関係性>	社会にある「もの」「こと」は、それぞれの関わりの中で形成されたり、存在したりしていること	<整理・分析>	比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、情報を整理し、事実を捉える。 (「思考ツール」を場面に合わせて使い分ける)
<地域性>	地域社会には、人々が関わり合いながら安心して暮らすための「もの」「こと」があること	<まとめ・表現>	自分の伝えたいことを明確にもち、目的や相手に応じて、効果的な方法を工夫しながら伝える。

※ 知識・技能については、単元配列表上では関連を示さず、生活・総合の学習指導案上で、その学年で育むことを目指す知識・技能を明記する。

図 育成を目指す資質・能力の三つの柱と応答力との対応

単元配列表の見方(詳細はHPをご参照ください)

小針小学校 第6学年 年間指導計画



	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月
国語	ついで、ついで、ついで(1) 春のついで(1) ついで(4) 地域の施設を巡り、よさ(1) 書き(2)等	思い、考えを深めよう(6) 漢字の広がり(1) 時の流れ(1) ついで(4) 地域の施設を巡り、よさ(1) 書き(2)等	たのしみは(2) 女の編み立て(2) 実物(1) ついで(4) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	あふりにあふること(10)	せんもん、まんなか(1) いもは(1) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	やま(1) ついで(4) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	比 日本文化を深めよう(11) 漢字の広がり(1) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	任意 秋のついで(4) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	秋のついで(4) ついで(4) ついで(4) ついで(4)	ついで(4) ついで(4) ついで(4) ついで(4)
総合的な学習の時間	新島の魅力って何だろう？(10) 広 広 広	新島の魅力って何だろう？(10) 広 広 広	どうやって新島の魅力を伝えるか？ 様 広 (10) <課題の設定>	「お弁当」って何だろう？(15) <整理・分析> 様	KOBA弁をつくらせよう(15) <まとめ・表現> 比	KOBA弁の魅力を広めよう(13) <協働> 比	KOBA弁の魅力を広めよう(5) <自律> 分			
学活	新島の魅力って何だろう？(10) 広 広 広	新島の魅力って何だろう？(10) 広 広 広	どうやって新島の魅力を伝えるか？ 様 広 (10) <課題の設定>	「お弁当」って何だろう？(15) <整理・分析> 様	KOBA弁をつくらせよう(15) <まとめ・表現> 比	KOBA弁の魅力を広めよう(13) <協働> 比	KOBA弁の魅力を広めよう(5) <自律> 分			
学校行事等	運動会	運動会	自然観察(5)	自然観察(5)	マラソン大会	作品展	ミュージックタイム			

各教科で一つ一つの資質・能力を育む網羅する学びから

身に付けた資質・能力を生活科・総合で活用・発揮する学びへ

(2)小針式・思考ツールの活用

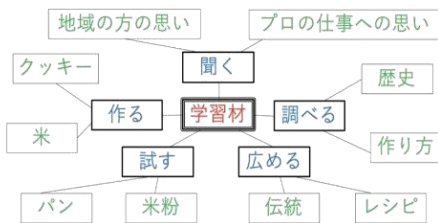
小針小学校の考える技として思考スキルを6つに限定し、子どもたちと共に思考ツールの活用方法、適切な場面を理解しながら使う。

⇒ 思考ツールを用いて **適切な制約** を設け、 **期待する思考** を促す。

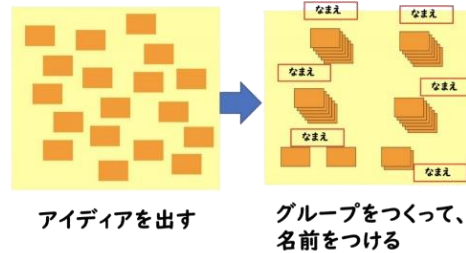
主に用いる思考スキルとそのための思考ツールの具体例

①広げる・つなげる

<ウェビング>

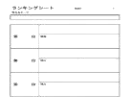


②分ける <KJ法>



③比べる

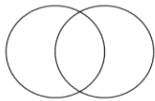
<ランキング>



<メリ・デメ>



<ベン図>

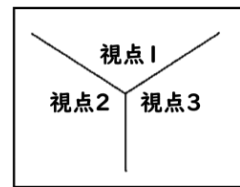


<ピラミッドチャート>

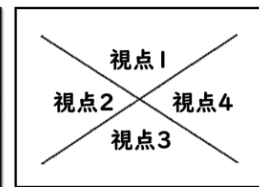


④様々な方向から見る

<Yチャート>

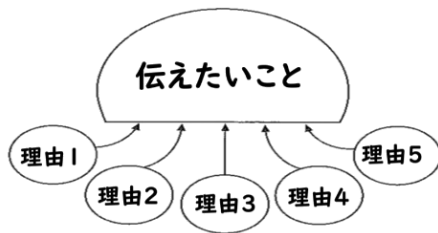


<Xチャート>



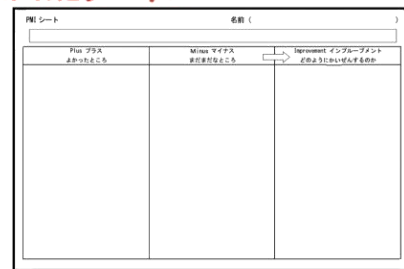
⑤理由を付ける

<クラゲチャート>



⑥評価する

<PMIシート>



考えるための技法（思考ツール）を切り口に各教科と生活科・総合をつなぐ。

主に用いる思考スキルを予め想定

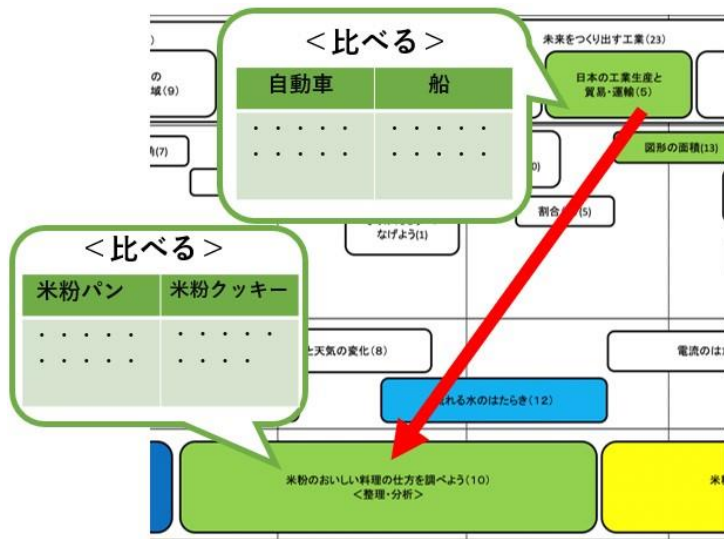
授業で思考ツールを積極的に活用

※ 思考ツールを自分で選べるよう、教師が助言する段階から、子どもたちが選択・組み合わせる段階へと経験を積み重ねる。

単元配列表上で、各単元で中心となる思考スキルを明示

同じ思考ツールを用いる単元を関連的に学習

- ◎ 教師：教科横断の視点として思考ツールを活用できる。
- 子ども：どの教科でも自覚的に思考ツールを使いこなせるようになる。



単元配列表の活用の具体例

○ 5年生社会科「未来を作り出す工業」で、表（思考ツール）を用いて自動車と船の情報を整理し、**比べる**思考スキルを用いる。

同時期に

○ 5年生総合「米粉のおいしい料理の仕方を調べよう」で、表（思考ツール）を用いて米粉パンと米粉クッキーの情報を整理し、**比べる**思考スキルを用いる。

(1)(2)によって

= 子どもたちは、関連する資質・能力に関わる学習を自覚して学ぶことで、**学んだ力を発揮**できる。

= 教師は、意図的に配置された単元配列表に基づいて単元・授業づくりを行うことで、**単元同士の関わりや発揮させたい資質・能力を意識**しながら指導できる。

(3)学びの質的な向上

単元づくり，45分の授業づくりのポイントを絞り，今年度取り組む単元に即して要点をまとめて指導案上に記述。

45分間の
授業づくり

45分の授業づくりのポイント

前時までの学びの様子を見取り，単元で育成を目指す資質・能力に照らして本時目標を設定。

核となる本時のしかけ（教師の積極的な働き掛け）。

【例】板書の構造化，思考ツールの活用，話題の取り上げ，実物提示，場の設定 等を1つ考えて，45分の授業を計画。

生活・総合の
単元づくり

単元づくりのポイント「主体的・対話的な学び」の視点から

1 本気を引き出す課題の設定

真正な課題の設定方法を明示。

2 体験的な活動（情報収集）と表現の充実

学習対象との関わり方やその手立てなどを明示。

3 対話（関わり）の活性化

ひと・もの・こととの関わり方，手立てなどを明示。

(3)によって

= **生活科・総合的な学習の時間に、各教科で身に付けた資質・能力が活用・発揮**されることを期待し、より一層「**応答力**」を確かに育む。

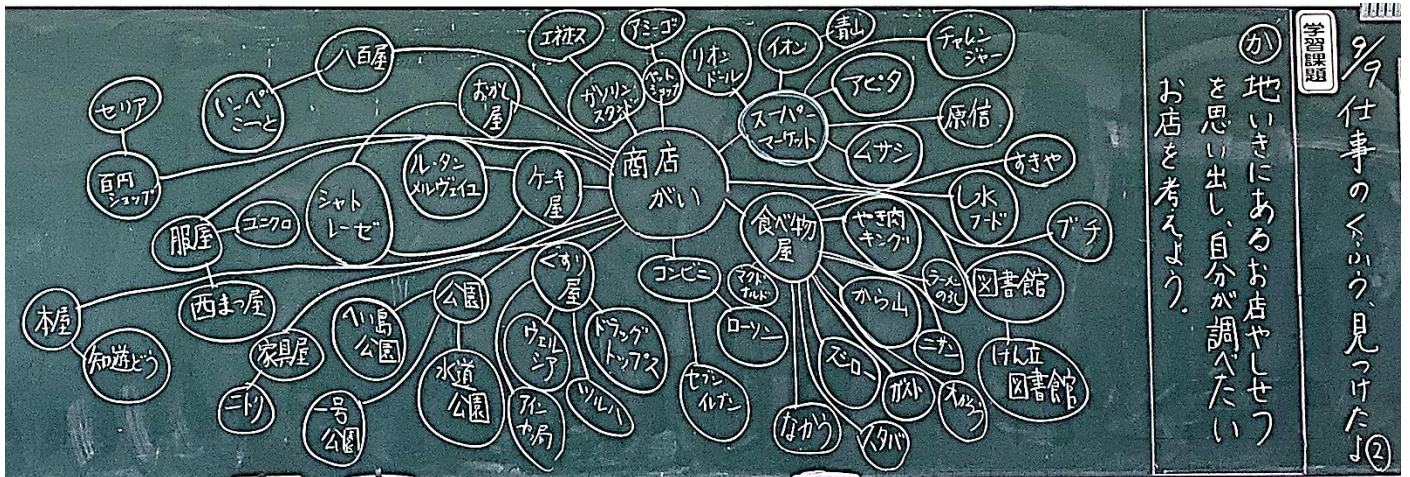
学びの実際の姿

6つの思考スキルを用いて行った授業板書の実例紹介。

※ 学年・教科・「単元名」を示す。

① 広げる・つなげる

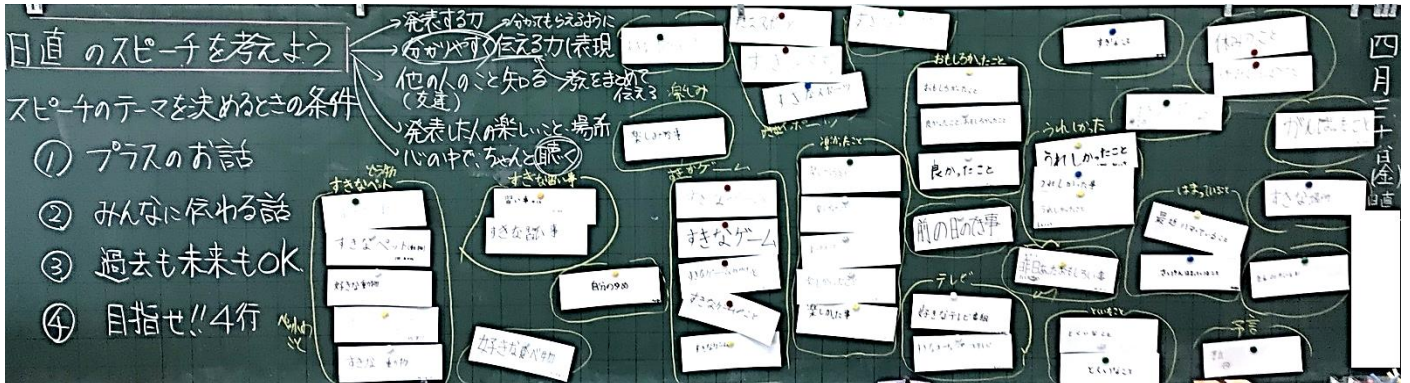
○ 3学年・国語・「仕事のくふう、見つけたよ」



⇒ **ウェビング**を使って、「商店街」のキーワードから地域にあるお店を拡散的に思い出すことで、似たような店ごとに類別しながら集約することができた。

② 分ける

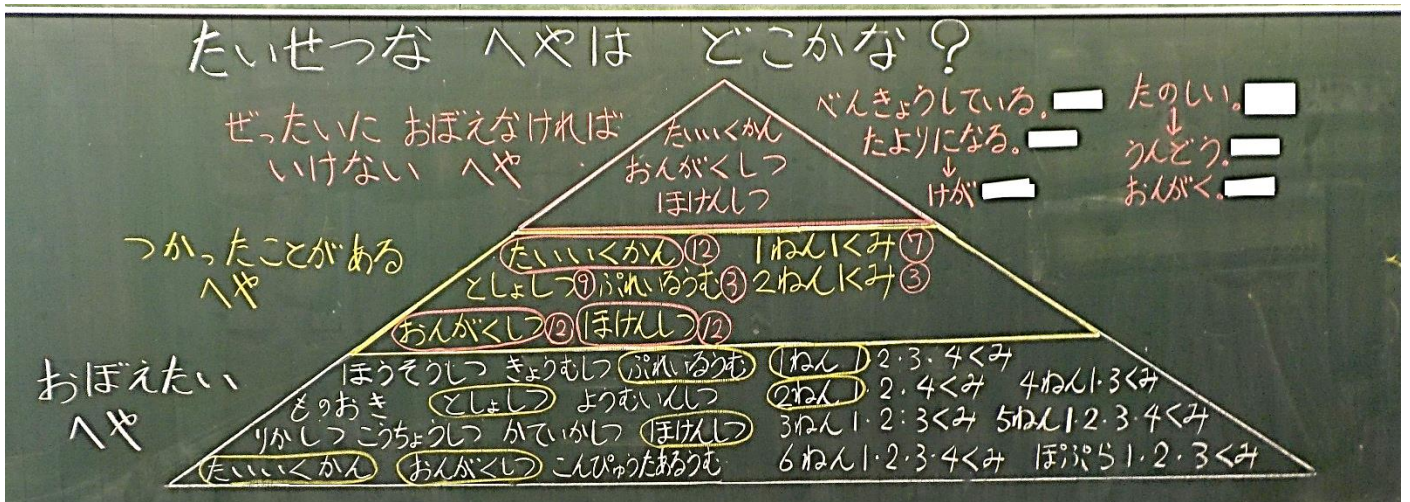
○ 4学年・学級活動・「学級内の組織づくり」



⇒ **KJ法**を使って、条件を確かめてから日直のスピーチ内容について案を出し合い、似たものをまとめることで、話しやすいスピーチ内容を決めることができた。

③ 比べる

○ 1学年・生活科・「がっこう だいすき」



⇒ **ピラミッドチャート**を使って、学校探検で見つけた教室を**使ったことがある** (条件1), **絶対に覚えなければいけない** (条件2) で順位付けをすることで、部屋の名前を覚えやすくなった。

④様々な方向から見る

○ 6学年・家庭科・「夏を涼しくさわやかに」

8/1 P.86

夏 22 冬 10

カブ プール スキー
海釣り 食べ物 雪あそび
野球 あたため 虫がいない
指が痛くない クリスマス
夏休み ぬくぬく(マフ)

学習課題
暑い夏を快適に過ごすにはどうしたらよいか？

まとめ
暑さをさげたり
体を冷やしたりするとよい。

夏野菜 ソメソメ かき氷、氷 冷やし中華 スイカ、もも アイス お茶づけ 冷やし汁、米入りそば 通気性 半そで半ズボン カウラス 日焼け止め 黒い服X そり 日がさ 甚平 ぼうし サングラス 窓の方位 窓を開ける(空気の通り道) 打ち水、うちわ 日がさ 蚊取り線香 ソーラパネル、ドアを開ける あみ戸

⇒ Yチャートを使って、暑い夏を快適に過ごす工夫を衣・食・住の観点別に整理することで、学習のまとめを導きやすくなった。

⑤理由を付ける

○ 2学年・国語・「わたしはおねえさん」

十二月四日

わたしはおねえさん

すみれちゃんがかいた

う。すみれちゃんがかいたわけを考えよう。

どうしてすみれちゃんは、絵をけしかけて、けすのをやめたのだろうか？

② 自分が着てたコスモスの絵だから⑥

① かんは、かいてくれたから⑤

④ かんは、かいてくれたから④

③ かりんちゃんがかいたから③

③ けしたら妹がおこるから⑦

⑤ 時間をかけてかいてくれた絵だから②

⑦ 妹の絵だから①

⑥ 自分が着てたコスモスの絵をかいてくれたから⑥

②、③、⑤、⑥、⑦

同じ⑥と⑧

自分が一番なつくする番うは

3 1
4 2

1
3 2

⇒ クラゲチャートを使って、主人公の行動の理由を本文から抜き出して書くことで、主人公の行動の根拠を確かめることができた。

⑥評価する

○ 5学年・総合的な学習の時間・「コシヒカリの魅力を広めよう」

1/5 ③ 学習課題 実際に商品化しては販売するおにぎりの具材は何か？

さけと塩のセット

P	M	I
<ul style="list-style-type: none"> 2つの味が楽しめる。 どちらとも人気、たくさん食べてもらえる。 消費量が 塩は誰でも食べられる。 セットならどちらか食べられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べられない人がいる。 好きな数を買えない。 1にだけ食べたい。 セットで買う必要がない。 一緒に食べればおいしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べられるはずだ。(アンケート結果) バラで売っている。 家族で分ける、お弁当で食べる。

まとめ

さけ さけ 塩 塩 さけ 塩

で売ればよい。

⇒ PMIシートを使って、商品化したいおにぎりの具材のよいところ(Plus)・心配なところ(Minus)・改善点(Improvement)を整理することで、販売に向けてお店に提案する具材の組み合わせを検討しやすくなった。